

# I 調査結果の概要

## 1 世帯における食品使用量、食品ロス量及び食品ロス率

世帯食（世帯において調理・食事したもので、外食、学校給食等を除いたもの。以下同じ。）における平成18年度の1人1日当たりの食品使用量は1,122gであった。

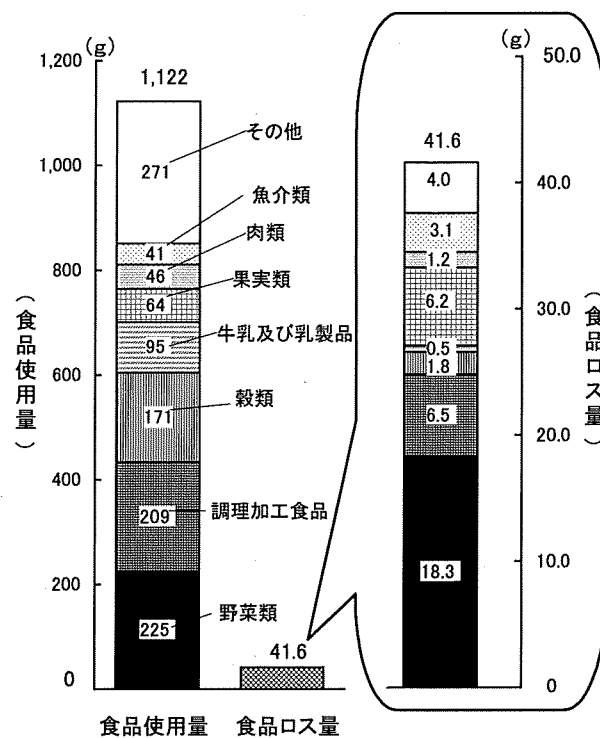
主な食品類別にみると、「野菜類」が225g（全体の20.1%）と最も多く、次いで「調理加工食品」が209g（同18.6%）、「穀類」が171g（同15.2%）の順となっている。

また、世帯食における1人1日当たりの食品ロス量（純食料のうち廃棄や食べ残されたもの。）は41.6gであった。

主な食品類別にみると、「野菜類」が18.3g（全体の43.9%）と最も多く、次いで「調理加工食品」が6.5g（同15.6%）、「果実類」が6.2g（同14.9%）の順となっている。

この結果、平成18年度の食品ロス率は3.7%となった。

図1 主な食品類別の食品使用量及び食品ロス量（世帯食1人1日当たり）

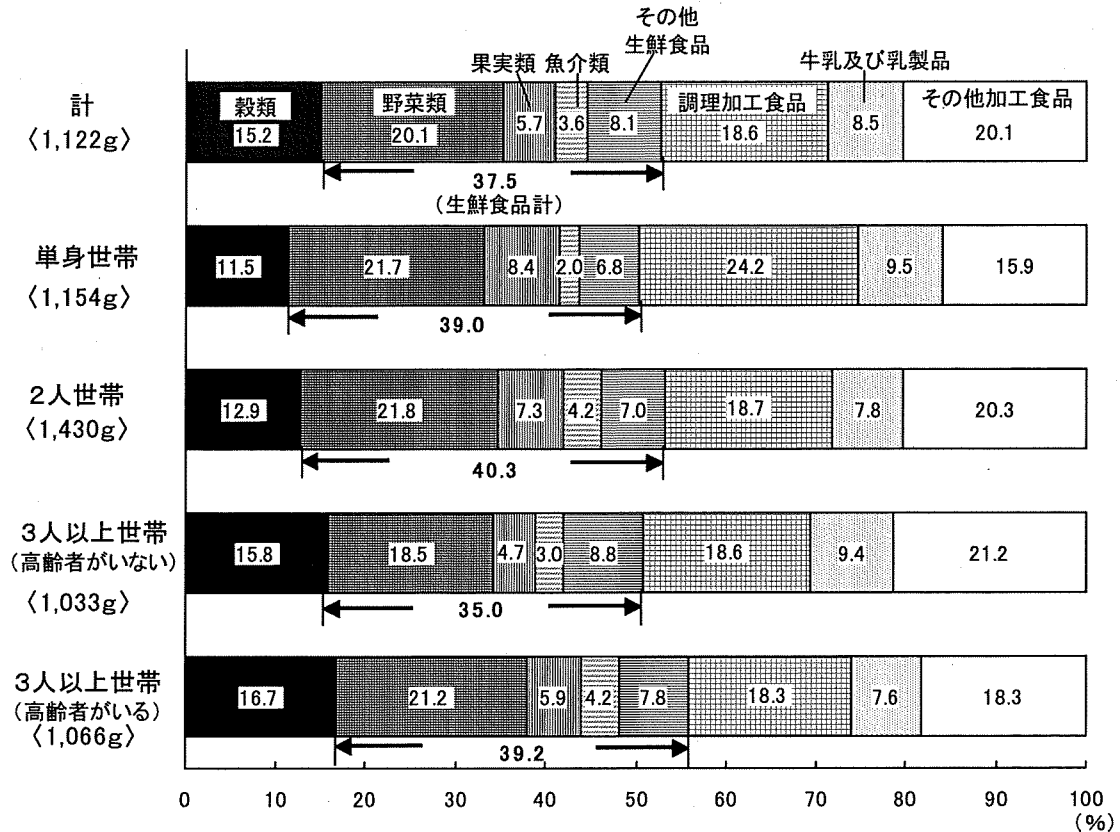


$$\text{食品ロス率 (\%)} = \frac{\text{食品ロス量}}{\text{食品使用量}} \times 100$$

### (1) 世帯員構成別にみた食品使用量及び食品使用量割合

世帯食における1人1日当たりの食品使用量を世帯員構成別にみると、「2人世帯」が1,430gと最も多く、次いで「単身世帯」が1,154g、「高齢者がいる3人以上世帯」が1,066g、「高齢者がいない3人以上世帯」が1,033gの順となっている。

図2 世帯員構成別の食品使用量及び食品使用量割合（世帯食1人1日当たり）



注：1 く ) は食品使用量を示している。

2 「その他生鮮食品」とは、「豆類」、「きのこ類」、「肉類」、「卵類」、「生鮮海藻類」をいう。

3 「その他加工食品」とは、「でんぷん」、「砂糖類」、「油脂類」、「調味料類」、「菓子類」、「飲料類」をいう。

「2人世帯」で食品使用量が多いのは、60歳以上の世帯員の構成割合が高く、自宅で食事をすることが多いためとみられる。

一方、「単身世帯」や「3人以上世帯」の食品使用量が「2人世帯」に比べて少ないのは、「単身世帯」では外食が多いことが、「3人以上世帯」では世帯構成員に小学生以下の子供が多いこと等が背景になっているものとみられる。

また、食品類別に食品使用量割合をみると、単身世帯では「調理加工食品」、2人世帯では「生鮮食品」<sup>(注)</sup>、高齢者がいる3人以上世帯では「穀類」が、他の世帯員構成に比べそれぞれ高くなっている。

単身世帯では、果実類及び調理加工食品が他の世帯員構成より比較的高く、調理をあまり必要としない食品を摂る傾向がうかがえる。

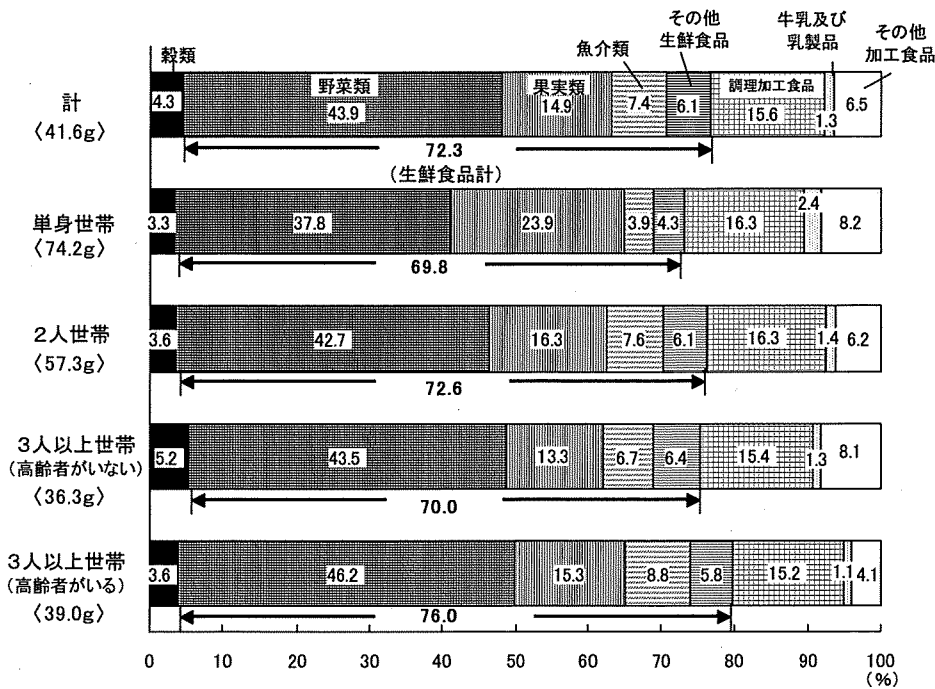
(注) ここでいう「生鮮食品」とは、本調査の食品類上「野菜類」、「果実類」、「魚介類」、「豆類」、「きのこ類」、「肉類」、「卵類」、「生鮮海藻類」に分類されるものをいう。

## (2) 世帯員構成別の食品ロス量及び食品ロス量割合

世帯食における1人1日当たりの食品ロス量を世帯員構成別にみると、「単身世帯」が74.2gと最も多く、次いで「2人世帯」が57.3g、「高齢者がいる3人以上世帯」が39.0g、「高齢者がいない3人以上世帯」が36.3gの順となっている。

また、主な食品類別に食品ロス量割合をみると、単身世帯では「果実類」が、高齢者がいる3人以上世帯では「野菜類」が他の世帯員構成に比べて高くなっている。

図3 世帯員構成別の食品ロス量及び食品ロス量割合（世帯食1人1日当たり）



注：1 く は食品ロス量を示している。

2 「その他生鮮食品」とは、「豆類」、「きのこ類」、「肉類」、「卵類」、「生鮮海藻類」をいう。

3 「その他加工食品」とは、「でんぷん」、「砂糖類」、「油脂類」、「調味料類」、「菓子類」、「飲料類」をいう。

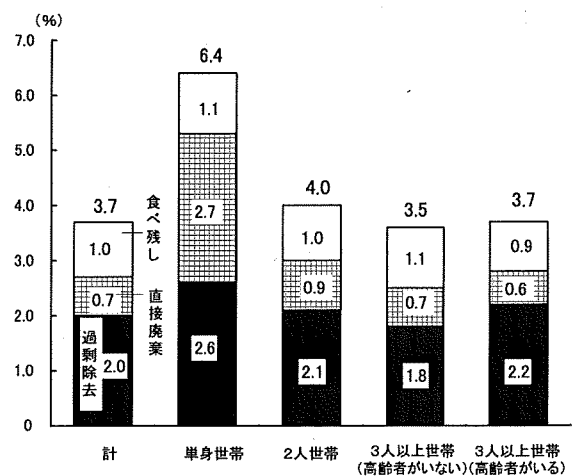
## (3) 食品ロス率

### ア 世帯員構成別

世帯食における食品ロス率は3.7%で、そのうち、「過剰除去」<sup>(注1)</sup>は2.0%と約半数を占めて最も高く、次いで「食べ残し」が1.0%、「直接廃棄」<sup>(注2)</sup>が0.7%の順となっている。

これを世帯員構成別に食品ロス率をみると、「単身世帯」が6.4%と最も高く、次いで「2人世帯」が4.0%、「高齢者がいる3人以上世帯」が3.7%、「高

図4 世帯員構成別の食品ロス率



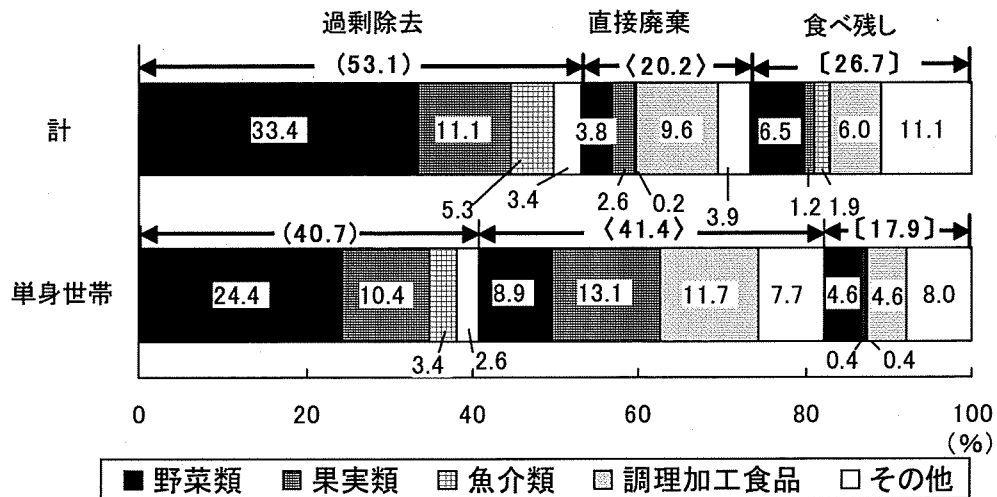
「年齢がいらない3人以上世帯」が3.5%の順となっている。

このうち、食品ロス率が最も高くなっている単身世帯では、野菜類、果実類及び調理加工食品などの直接廃棄の割合が高くなっている。

(注1) 「過剰除去」とは、大根の皮の厚むきによる除去等をいう。

(注2) 「直接廃棄」とは、賞味期限切れ等で世帯において使用・提供されずに廃棄したものをいう。

図5 発生要因別の食品ロス量割合（世帯食1人1日当たり）

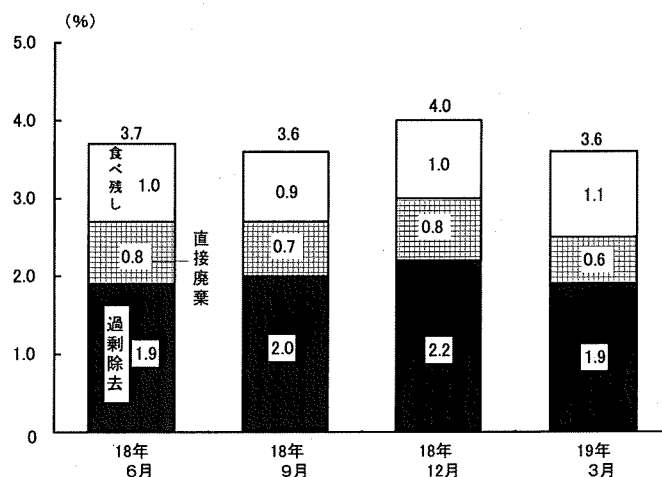


注：図中の数値は全体のロス量に占める各要因別の食品別のロス量の割合を示し、( )は過剰除去を、< >は直接廃棄を、[ ]は食べ残し量の割合を示している。

### イ 調査時期別

調査時期別の食品ロス率をみると、「18年12月」が4.0%と最も高く、次いで「18年6月」が3.7%、「18年9月」及び「19年3月」が3.6%の順となっている。

図6 調査時期別の食品ロス率

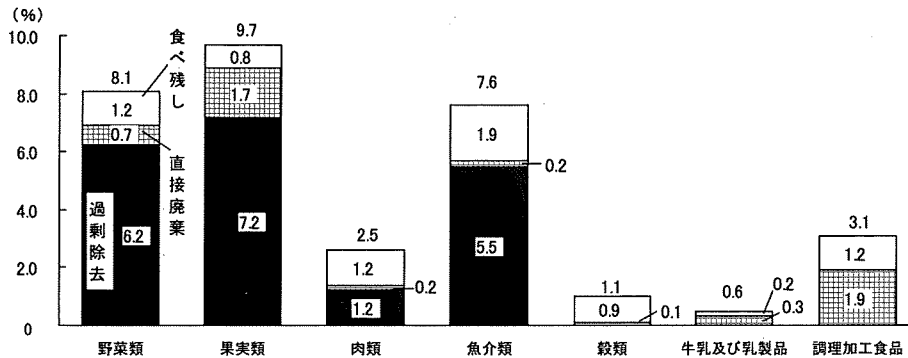


## ウ 主な食品類別

主な食品類別の食品ロス率をみると、「果実類」が9.7%と最も高く、次いで「野菜類」が8.1%、「魚介類」が7.6%の順となっており、過剰除去によるロス率の高い生鮮食品で高くなっている。

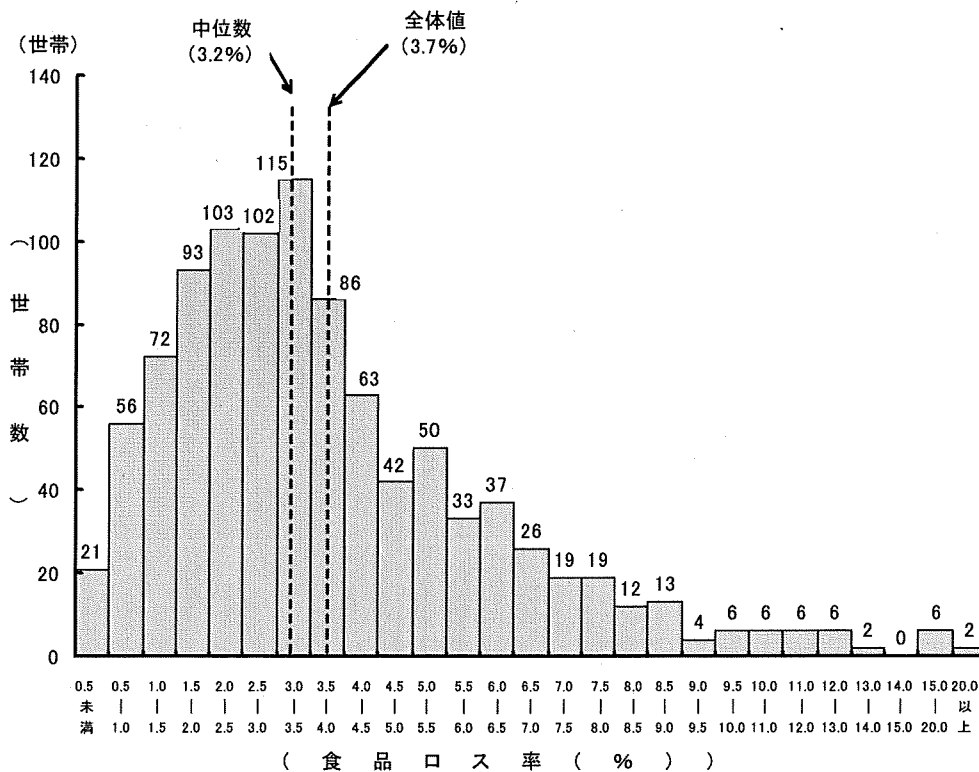
また、「調理加工食品」では直接廃棄（1.9%）が、「魚介類」では食べ残し（1.9%）が他の食品に比べて高くなっている。

図7 主な食品類別の食品ロス率



## 参考 本年度の食品ロス率別の世帯数分布

本年度の世帯食における食品ロス率は3.7%であるが、食品ロス率別に調査世帯（1,000世帯）の分布をみると、全体の約6割がこれを下回る結果となっており、中位（500番目と501番目の平均値）の世帯の食品ロス率は3.2%となっている。

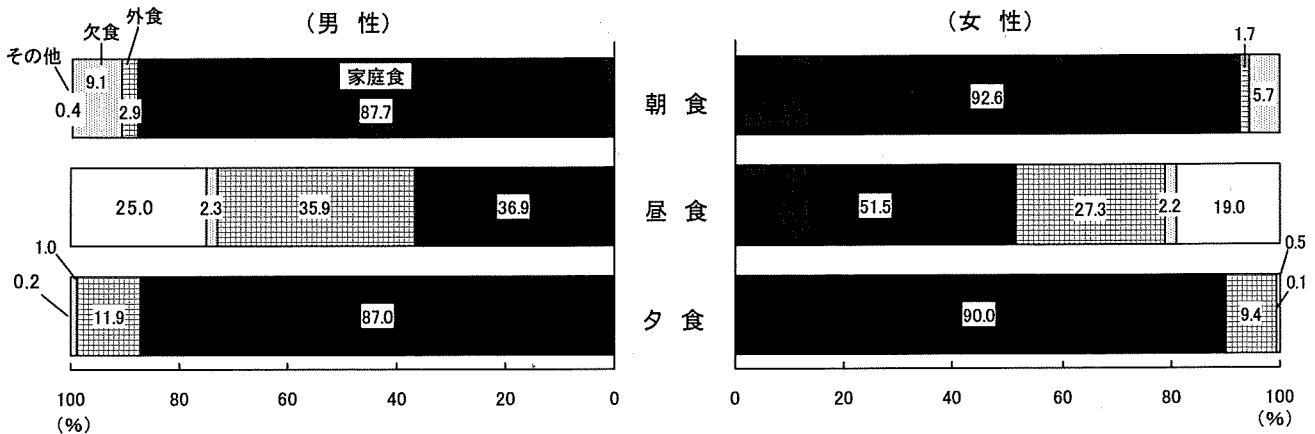


## 2 世帯における食事の状況

### (1) 世帯員の食事状況

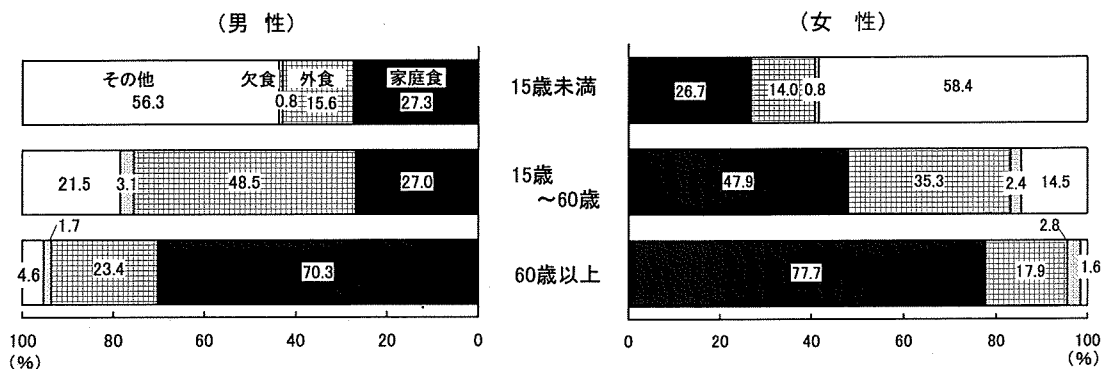
世帯員の性別ごとに調査期間1週間における食事状況をみると、朝食及び夕食は「家庭食」（家庭で摂る食事。以下同じ。）の割合が男女とも約9割となっている。また、昼食は朝食や夕食に比べて、「外食」や「その他」（給食、自家製弁当）の割合が高く、特に、男性の「外食」（35.9%）は「家庭食」（36.9%）とほぼ同じ割合となっている。

図8 世帯員の食事状況



さらに、昼食を世帯員の年齢階層別にみると、15歳未満は、男女ともに「その他」（給食、自家製弁当）が約6割を占めている。また、15歳～60歳の男性では約半数を「外食」（48.5%）、女性では約半数を「家庭食」（47.9%）が占めている。

図9 昼食時の世帯員の食事状況（世帯員年齢階層別）



(2) 世帯員全員での食事状況

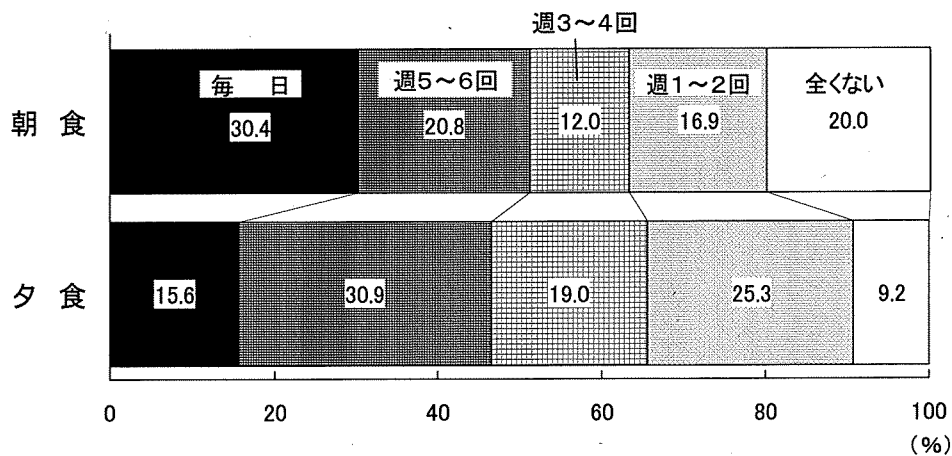
調査期間1週間のうち、自宅において世帯員全員で食事した回数をみると、以下のようになっている。

ア 3人以上世帯

朝食を「週5回以上」全員で摂った世帯の割合は51.2%、全員で食事を摂ることが「全くない」世帯は20.0%であった。

また、夕食では、「週5回以上」の世帯は46.5%、「全くない」世帯は9.2%であった。

図10 世帯員全員で食事した割合（3人以上世帯）



イ 2世代以上の世帯

高齢者も15歳未満の世帯員もいない2世代世帯及び3世代以上世帯では、朝食を全員で摂る回数が「週2回以下」の世帯が約5割を占めている。また、高齢者がいる2世代世帯では、朝食、夕食ともに、「週5回以上」全員で摂る世帯が約7割となっている。

図11 世帯員全員で食事した割合（2世代以上世帯）

